

氏名：平野 稔也(青年海外協力隊)

滞在国：タンザニア

職種：理学療法士

タイトル：ザンジバル日記(Habari za Zanzibar)⑦

HONGERA!!

「Hongera!(ホンゲラ!)」

今回は、お祝い事などで用いられる“おめでとう”です。結婚や卒業など、イベントでは「Hongera sana(ホンゲラ サーナ)」という「Asante sana(アサンテ サーナ)」と返ってきます。最後に「sana(サーナ)」とつけてあげることでより強調できます。

Ramadhan ラマダン(イスラム教の文化)

ラマダン月はよく日本でもニュースになりますね。ラマダン月を狙って各国でテロが起きている話を日本にいても聞いていました。私も初めはイスラムと聞くと抵抗はありましたが今はもう気にすることもなくなりました。

しかし、そもそも、「ラマダンとは??」「ラマダンは本当に危険??」。

今回のラマダンを経験したので少しお伝えしようと思います。ラマダンとは、「断食」という印象が強いですが本当に断食します。ただし、朝日が昇ってから日没までの期間と決められています。その間は本当に飲み物も食べ物も嗜好品も何かも口にすることがありません。信仰心が強い人は、水気があるものすら避ける人もいます(例:プールなど)。

ここで一つの驚きは、ほとんど飲食店が閉まっていること。この時期はいつも賑わっているお店もガラーンとしています。ここまでお店が閉まると、食べたくても食べられません。

さて、なぜこんなにも「自己犠牲」を大切にするのか…それは、飢えを共有し連帯感を感じることで、また健康のためになる(悪いものが全て排出されて、スッキリする)とのこと。後は、ラマダン後の食事を家族みんなですることにより家族の結びつきがさらに、強くなるみたいです。日没後の食事は、約 2,3 回ぐらい摂り、日の出前までしっかり食事をとることが良いとされています。果たして、これが身体にいいのか…疑問はありますが、ほとんどのイスラム教徒が通常の月よりもラマダン月を好みます。



そして、この時期はモスクへ行く回数(お祈りする回数)もとても多く、多くの人たちでいっぱいになります。しかし、そのモスクで教えを説く人々がたくさんの人の前で欧米等の異文化に対して増悪を説く機会があると、その増悪が強くなりいろんな問題へと発展すると言われていいます。特に、この時期は心が清まり、信仰心が最高潮に高まりやすい時期です。いくら危険ではないと言っても、そう言ったモスク周辺では高揚した人々によりお祭り騒ぎが多く見られるようになります。

今回、ほとんどがイスラム教というザンジバル島で生活しラマダンと共に経験した感想としては「宗教」という言葉だけでは何か言い表せない“温かいもの”を感じました。貧富の差があっても同じ生活を家族とともに共有し、ご馳走を大人から子供まで同じように食べ、飢えを共有する習慣を感じるものがありました。もちろん現地のタンザニア人にとってラマダンは特別な日であり、幸せを感じられる月です。危険を感じることもなく、むしろ世界の一部で起こっているこういった許しがたい行為、考え方に異論を唱える人々が多く、そのような光景を見ているとほっとする気持ちになりますね。

終わりに

タンザニアといえば、“サファリ”や“キリマンジャロ”といった観光名所が有名ですね。私たち協力隊は活動の合間の中で他の協力隊の活動を視察したり、その国の中で行くことが可能な名所を巡ったりしながら新しい経験に触れることができます。

今回はキリマンジェロ登山にチャレンジし、見事登頂することができました。標高は5895mで日本の富士山3952mよりも高い山に登ることができました。高山病との戦いで

厳しいものがありました…壮大な大自然に触れ、そして自分との戦いの中で何か見つめ直せるきっかけにもなったと思います。このようなチャレンジができる機会が身近にあることに感謝しながら、さらに日々前進していきたいと思います。

